

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2年 宇津野未来

第13回地域教育実践交流集会に参加させていただき、ありがとうございました。このコロナ過で、オンラインでの開催、たくさんの準備をされてきたのだらうと思います。このような場を設けてくださったおかげで、他の方々との関りでたくさんの元気をもらいました。本当にありがとうございます。私がこの交流集会で、特に印象に残った言葉が二つあるので、紹介させていただきます。

一つは、「表現次第で他人事になる」という言葉です。桐蔭学園高等学校さんの発表の中で、障がい者スポーツを広めたいという内容のところ、“障がい者スポーツ”という名前でやっているから他の人が関心を示しづらく他人ごとにしてしまうのではないかと、だから違う名前をつけてみてはどうかという提案をされていました。わたしはこれを聞いてとても納得したし、たしかに言い方ひとつでだいぶ変わってくるなと思いました。言葉の表現ってとても大事で、例えばこの私たちが行っている活動を誰かに紹介するときにも、言い方ひとつで相手の方の受け取り方って変わってくるのではないかと感じました。話すときの言葉の工夫はいくらでもできると思うので、これからの日常生活やこの活動を行っていく際に、気を付けながら言葉選びをして行きたいなと思いました。

もう一つは、「その気にさせるのは単純なきっかけ」という言葉です。わたしたちも今、来年の開催に向けてまずは大学生の学生スタッフを集める募集活動というものを行っています。その場で、NPOおのみち寺子屋について何も知らない人に説明するときがあるのですが、その時にただ一つの作業のように事務的に年間の流れを説明するのではなく、そこから話を少し発展させたりすることによって、その人が興味を持ってくれる部分だったりが見つかるのではないだろうかと思いました。ただ一つの説明をして、興味なかったからこの人とは一緒に活動はできなそうだと判断するのではなく様々な方向からの説明や会話を加えることによって、一緒に活動したいと思ってもらえるような興味を示してくれるのではないかと感じました。

この二つはどちらも、私たちのこの活動を知らない人に興味を持ってもらいたいときにとても重要になってくることだと思います。この機会をくださったからこそ、ただ学んだ、知った、で終わらせるのではなく、実際にこれから活用していきたいと思っています。

先日は本当にありがとうございました。とても充実した時間になりました。来年こそは大洲の地で開催できることを願っています。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 3年 小堂拓海

地域教育実践交流会に参加してみて、私は「憧れのサイクル」について、学びました。

私が参加した分散会“愛ラブふるさとよくばりプロジェクト“双海市の地域おこし”
“どちらの発表にも共通して、カッコいい大人がいることがわかりました。子供のころ、なんとなく地域のおじさん、おばさん方が一緒になってお祭りを盛り上げてくれたり、町であったら気さくに挨拶をしてくれたり、一緒に遊んでくれた。そんな小さな思い出1つ1つが大人になるにつれて、この町が好きだなあ。と思わせてくれる1歩なのだと、感じました。

そして、町が好きと感じた子どもたちが今度は、支える側に立って、地域おこしをしていく。という良いサイクルを作ることこそが、地域活性化につながることを知りました。私の地元では、今回の交流会で集まってくださったような熱い思いを持った方とは、まだ知り合えていないため、少しうらやましくもありました。都会にはない、地方の方たちの暖かさに触れることができたのも今回の活動を通して、得た学びです。

また、もう1つ感じたことがあります。それは、「とりあえず行動してみる」の大切さです。分散会で発表して下さった、上田さんは私と同じ大学生の方でした。上田さんの発表からは、双海市が好きという想いが画面を通してビシビシ伝わってきました。途中、町の子ども達も集まってきたりして、上田さん自身が愛されていることがわかりました。私は現在、就活中ですが、こんな風に自分の働いている仕事にやりがいを持っていたい。心から好きと思える仕事についていたい。と、とても感じました。上田さんが発表の中でいわれていた、とりあえず行動して、いろんな人に力を貸してもらおう。こちらから勇気をもって、踏み出す。ことが大事だと学びました。自分自身がダメかも、失敗してしまっただけだ。と、思っていたことでも、どこかで縁があって自分の為になったり、巡り巡っていろんな出会いを頂けることは、生きてい行くうえで財産になっていくことを知りました。

今回の交流会でも様々な方と出会い、学べたように、自分自身、人とのご縁を大切に生きていきます。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 一年 金崎隼也

まずは、こういった場を作ってくださりありがとうございました。自分はこの交流会に参加する前に事前準備をあまりしてなく、交流会後とても後悔しました。分散会でも事前準備しとけばもっと有意義な話し合いや質問ができたなと反省しました。次参加するときはこの反省を生かして事前準備をしっかりしたいです。自分が参加した分散会は大畑さんと石丸さんの発表を聞かせていただきました。大畑さんの発表は気持ちがこもりすぎて、今なら自分何でもできそう！という気持ちになりました。子供たちに学校や家庭以外にも何か作るぞ！という気持ちになってもらえる居場所を作る考えがとても素晴らしいと思いました。また自分が高校時代参加したNPO主催のどっぴとちょっと似ているところがあるなと感じました。益田市のカタリ場のほうが規模とつながりが広く、まねさせてもらおうと思いました。石丸さんの発表は、とにかく尊敬のまなざししかありませんでした。同じ大学生とは思えず、活動のなぜ、効果がしっかりまとめられていて聞きやすかったです。コロナの影響でボランティア活動がうまくできないのに、その環境だからこそできることをやろうという精神を学ばせていただきました。また、ボランティア活動など活動何でもつながりが大事だなと思いました。石丸さんたちは今までの活動のつながりを大切にしている、そこから活動の場が広がってすてきだなと思いました。二人に共通するのは、子供たちにエネルギーをつけてほしいという点があるなと思いました。それを実行し子供たちの変化を与え、過程を見てもっとよりよくできるんじゃないかと模索していました。自分はこの分散会が終わった後、どこから皆さんはその力が湧くんだろうと疑問に思いました。今回の交流会で、皆さんがキラキラ見えたばかりですが、今度は自分が皆さんの立場に立ちたいと強く思いました。最後の事例発表では、時間の関係で深掘できなく残念でしたが、皆さん課題を挙げその解決案を具体的に上げていて、来年を見据えてもう準備しているのが伝わりました。自分も今年の活動を振り返り来年どうするか具体案を建てたいと思いました。また発表にはその人の気持ち次第で大きく変わるんだと思いました。構成も大事ですが、その人がどれだけ活動に対しての心持次第で伝わり方も違って来るんだと思いました。今回の交流会で学んだこと、反省したことたくさんありました。実際時間あっという間に過ぎたと感じました。一番は自分の勉強不足を痛感したので、おのみち寺子屋や大学生活を通じていろいろな人の話や活動に積極的に参加したいと思いました。皆さんのように口だけにならないようにしたいです。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2年 坂井 昂太

私は第2分散会に参加して、文部科学省の榎木さんのお話と宇和島市公民館の職員の西尾さんのお話を聞かせていただきました。榎木さんのお話は学校と地域が手を取り合って柔軟に問題を解決することができるように、様々な地域で取り組みを行っているというお話で、その中でも一番興味深かったのが群馬県前橋市の公民館での取り組みです。その公民館では子ども達が勉強できるスペースもあれば、おしゃべりができたり寝たりと自由にのんびりとできるスペースがあるそうです。そのスペースを作ったことによって、地域の方々子どもたちとの関わりが増えて、今では地域の方に相談をしている子どももいるそうです。

自分は大学生になるまでは公民館というものはいくつかの団体が活動を行っているぐらいで、子どもの自分とはあまりかかわりのないものだと思っていて、少し近寄りたがいのものでした。ですが大学生になりNPOおのみち寺子屋に参加して公民館をよく使用させていただく機会が増えて少し公民館に対する認識が変わり、今回の榎木さんのお話を聞いてさらに認識が変わりました。公民館というものは日本中どの地域にも必ずあるものです。ですが自分の実家がある地域でもそうだったように、あまり多くの方に使われていない公民館も多く存在しています。すべての公民館で地域それぞれの特色を生かした独自の場所をつくれれば、子ども達と地域の人とのつながりを作ることができ、学校と地域のレジリエンスがより強くなっていくのではないかと思います。

そしてもし、自分が実家の地域の公民館で新しいスペースをつくれることになったら、自分は少し大きめの場所を作って誰でも畑を耕せるスペースを作りたいです。そうすれば子ども達が外に出かけるきっかけにもなるし、地域の方々のアドバイスも受けながらすれば交流もすることができてより良い関係になると思ったからです。そして作物ができたらみんなで記念撮影をして公民館に掲示出来たらなと思います。ですが実際問題自分が公民館の職員にならないとなかなかこのようなことはできないと思います。ですが地域の方々と協力して公民館で子ども達も参加できるイベントを行うことはできると思います。少しでも地域が活性化できるように自分から働きかけてより良い地域になればいいなと思いました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 4年 田中伶奈

今回の地域教育実践交流集会を通して私が学んだことは3つあります。

1つ目は、「楽しむ姿勢」です。分散会を通して、どの活動をされている方も「楽しい」ということを伝えてくれました。分散会で「活動する中で、大変なことはありますか」とお聞きすると、「楽しんでやっているから、大変なことはない」と教えて下さりました。

大変なことや苦しいこと、悩むことがきっとあるはずなのに、楽しもうと前向きに活動されていることを知り、捉え方や考え方の大切さに改めて気づきました。

私は今、卒業論文に取り組んでいます。使用したかったデータが使えないことが分かり、ほぼ1から取り組まなければならない状態になってしまっていますが、「大変だなあ」と思うのではなく、「また、新たなことを知ることができる」と前向きに捉え、卒業論文に楽しく取り組んでいます。

2つ目は、「人とのつながり」が大切であるが、その「つながり」を創る方法は多種多様であることを学びました。どの活動も「人とのつながり」を大切にしていたのですが、活動内容は一つとして、同じものはありませんでした。けれど、どの活動にもそこに参加している人や、目の前にいる人を「思いやる心」があるのだと感じました。活動内容や環境が違っていても、相手を思った行動には「また会いたい」「また参加したい」「楽しい」と感じてもらうことができ、人とひとのつながりにつながるのだと思います。

今あるつながりを大切にしつつ、これからも目の前にいる人が「どうしたら喜んでくれるかなあ」「楽しくなるかなあ」「笑顔になってくれるかなあ」、そんなことを考えながら行動していきたいと思います。

3つ目は、「伝え方」です。分散会で「簡単に自分の参加されている活動について紹介して下さい」と伝えられ、自分自身の活動について紹介する場面がありました。私自身の準備不足もありましたが、簡潔に、分かりやすく相手に伝えることが上手くできませんでした。

ここで学んだことが「伝え方」です。言葉選びや伝えたいことの明確化、話すスピードや表情、遠隔での交流ではありましたが、たくさんの人の発表を聞くことがで、伝える上で大切なことに気づくことができました。相手に伝わるためには、自分の伝えたいことは伝え方を工夫することで、伝わり方は変化してくると思います。これから、私は話すスピードが速いので、話す速度を意識していきます。

今回もたくさんの学びと気づきをありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 1年 安田まり乃

私はこの交流集会で2つとても興味を惹かれた活動がありました。1つ目は「放課後NPOアフタースクール」についてです。2004年頃に多発した連れ去り事件などを機に、子供たちから奪われてしまった自由に安全な放課後を取り戻そうと活動されています。学校の施設を活用したり、地域の方を市民先生として知恵や技などを教える教室を開催したりまた企業とも数多くコラボされています。このコロナ禍では、急に休校になった子供たちのためオンラインのアフタースクールということでオンラインにおいても様々なプログラムが実施されたそうです。様々なプログラムを紹介して下さったのですがどれもすごく魅力的でした。現代の子供たちに不足しているとされる体験を通じての学びがたくさん詰まっているなと感じました。おの100の活動も体験を通しての学びであるので、形は違えどつながるものがあるなと感じました。

2つ目に興味を惹かれたのが「コダテル」についてです。小さな一軒家のなかで働く場、学ぶ場、交流の場とそれぞれが思い思いに過ごす中で生まれる“〇〇したい！”という気持ちを応援されています。子供から大人まで幅広い年代の人が集まることによって、学生たちにとって大人と関われる場にもなっています。色んな人が出会い交流するなかで互いに夢を見つけたり、将来の指針を考えるきっかけにもなっているそうです。みんなの“〇〇したい”を実現させるためにとってとても素敵な活動だなと感じたとともに、“〇〇したい”と語れる空間も素敵だなと感じました。学生と社会人が少しラフな形で生き方や働き方などを相談したり、語り合ったりする空間も素敵だと思いました。

この交流会に参加して、とても素敵な活動にたくさん出会うことができました。今まで知らなかった活動ばかりで、多くの人たちが次世代の子供のためや地域社会のために色々なことに取り組んでいるんだということを知ることができました。自分自身が小学生中学生のときに郷土愛について学習したことがあったのですが、そんな強い思いなどはなく地域のために何かをしようと思ったこともなかったです。ですが、この交流会を通じて自分にも地域のためにできることは何だろうと考えるようになりました。また、この交流集会で出会った取り組みや活動がもっと広がっていけばいいなと感じました。たくさんの方が色んな取り組み活動に出会い感化され、自分にもできることをそれぞれが探し実行して新たなつながりのある社会が構築されるといいなと思います。大きなことをいっきに自分だけで成し遂げることは難しいけれど、人のつながり繋がり夢が実現することも大いに在り得ることなんだと思いました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 3年 桔梗 晃一

先日はたくさんの学びと貴重な機会をありがとうございました。半日ではありましたが、多くの気づきをいただきました。その中でも印象が強かった事を2点振り返らせていただきます。

1点目はどのようにダイバーシティ化を進めるのかという事です。僕の参加させていただいた分散会ではワークライフラボの堀田さんがそれについて話してくださいました。堀田さんも言われていましたが、「地域教育が少し時代の流れと逆行していると思われるところをどう時代に則したものにしていくのか」堀田さんの事業はそれをすごくうまく捉えた事業であるなと感じました。

そこで鬼ごっこを例に挙げて説明をしてくださいました。僕は今までなんの制限もなく自由にする事が多様性を認める事だと思っていました。それでは目指すところにズレが生まれるとも感じていました。その例の中では1~6年生までが同じ鬼ごっこをするとしたら6年生は1年生を狙い、鬼をするのは1年生ばかりになってしまうかもしれないけれど、じゃあ、低学年は数回つかまってもいいようにするとゲームバランスが保たれるかもしれないし、低学年の子たちも楽しめそうですね。ここから僕は、不自由は時に自由を生み出す事がある事を知りました。ダイバーシティというのは同じ方向を向き、一定のルールのようなものの中に多様性が存在し、大きな力を生み出し、違いを受容する事ができるのかもしれない。

2点目はテクノロジーの溶け込みを疑うという事です。僕は工学部に在籍しているので、日々の生活の中にテクノロジーが溶け込んでいくことは喜ばしいことです。しかし、このごろはすごく安易に取り入れ、それを加速させている気がします。この時代ですから、それが特別悪いわけではないですし、溶け込むからこそできたこともたくさんあると思います。今一度、僕たちはこの加速度的に発達するテクノロジーを疑い、どの部分をそのテクノロジーが担うことができ、どこは絶対に譲れないところなのか、デジタルが作り出す世界と、僕たちが住むアナログな世界は共存することができます。どちらがその世界を奪うかではなく、得意だから任せるように同じ世界の中でうまく調和がとれるといいと思いますし、今の過渡期において考えていくことが重要で、失敗も大切だと思います。1点目と似ているところがありますね。

最後に、たくさんの学びや貴重なお話をありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 2年 野田 雅

私は、今回の地域教育実践交流集会が初めての参加でした。そこで、3つのことを感じました。

1つ目は、いろいろな方が集まって意見交換をすることはとてもためになるということです。今回、分散会の中で1つのお題に対してみんなで意見を出し合う場面があったのですが、詐欺に引っかかったという経験や、リーダーとして必要なことを経験をふまえながら話してくださったりしました。これは、年齢も性別も、おかれている環境も違うからこそ、それぞれ経験していることがちがって、いろいろな意見が出てくるのだと感じました。普段から、勇気をもって、いろんなところに飛び込んでいかないといけないなと思いました。

2つ目は、イレギュラーへの対応のすごさです。ZOOMといったなれない環境のなかでの交流会だったので、イレギュラーが起こるのはある程度予想はされていたと思います。しかし、対応はとても難しいし、テンパってしまうものなのかと思っていましたが、大洲の主催者のみなさんはとても対応が早いと感じました。あたふた、ドタバタするのではなく、イレギュラーを楽しんでいるように感じました。たとえイレギュラーが起きたとしても、落ち着いてみんなでカバーして、みんなが楽しめる方向へとつなげていく、そんな魔法を使っていて、素晴らしいと感じました。どんな時でも楽しむにはどうするかということを考えてみようと思います。

3つ目は、自分たちだけではないんだということです。今、世界中がコロナウイルスで大変なことになっていますが、そんな中でも、今回の交流集会には200人以上の方が参加され、各々が、地域教育の活性化のために、手作りの教科書を作ったり、学びの場を提供したり、自分の学んだことを活かして部活動をしたり、自分ができることを考えて実践されているのだと、自分たちだけではないんだと感じ、大変だけど、できることをコツコツ頑張っていこうと元気をいただきました。

このような環境ではありましたが、新しい試みで、ZOOMでの開催をしてくださり本当にありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 3年 宮原 夢佳

私は昨年も参加させていただき、たくさんの学びをいただきました。そして、今年はオンラインという形ではありましたが、たくさんの方のお話を伺うことができ、学びをいただくことができました。今回、2分散会でお話を聞かせていただきました。

東京の文部科学省地域学校協働活動推進室の榎木奨悟さんの行っている、「学校と地域のレジリエンス」をモットーとした活動のお話の中で印象的だったのが、「やらなくてはいけないこと以外に取り組むこと」ということです。

群馬県では、大学生と公民館が協力をして寺子屋をされていて、ただ勉強をするだけでなく、おしゃべりだけのスペースというものを用意されているというのを聞いて、最初は驚いたけど、そのようなコミュニケーションの場を大切にするのは素晴らしいことだなと思いました。「自由な居場所」を大切にされていると仰っていました。

「やらないといけない」を「やりたい」に無理やり変えようとしてもそれは正直難しいけど、やらないといけないことプラス、どうでもいいような、くだらないことかもしれないことや、やってみようかなと思えたことなども、必要ないからと排除するんじゃなく、やって良かったんだと大切にしていこうと思えました。

そして、宇和島市立中央公民館のホリバタ事業を行っている、西尾祥之さんのお話の中に「やりたいことがある人には応援する。やりたいことが見つからない人にはヒントを与える。つまらないなと思っている人には刺激を与える。」という言葉がありました。ホリバタ事業の公民館に対する青少年たちの声をすぐに取り入れようとする姿勢、そしてそれをすぐ実行されていることを知り、きっかけを作るかもしれない環境を実際の声を聴いて作られていることがすごいと感じました。

どちらのお話にも共通して言えたことが、「自由の場」を大切にしているということなのではないかと思います。ただやらされていると感じている間は、身につくことがほぼないけど、居心地がよかったり、なんとなくだけどやってみようと思えることを無駄なことと粗末にせずに過ごしていこうと思いました。

そしてそんな自分のやりたいこと、好きなことに熱中できるような居場所づくりが地域教育にあるからこそ、郷土愛のある人たちが生まれるんだろうなと感じました。

素敵なお話を本当に有り難うございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 3年 掛川泰輝

今回の大洲交流集会での気づきや学びですが、まず思っていた以上に全国津々浦々からたくさんの方の地域教育や社会教育に関心がある方や実際に地域教育や社会教育をされている方が多くて、そしてその方々みなさんが暖かくて、この会議を楽しみに何か学んで帰ろうとか何か見つけて帰ろうといった積極的に参加されている姿はすごく雰囲気も良く発言しやすさや楽しさはおの100での研修のように何を発言しても大丈夫だ！というような安心感を得られ参加しやすかったです。このような雰囲気づくりというのは意識してできるものでもあるのと同時に本当に楽しんでいる、学んでやろう！という気持ちがないとできないのではないかと気づきました。しかし、オンラインでの会議ということで発表者の方々の思いや考え熱意など対面になると喋り方や表情などで伝わってくるものも伝わりにくくなってしまわないかなと思います。しかし、その中でどれだけ伝えることができるのかということを実際に考えて、準備して来られたのかなと思います。僕のようにネット回線が弱かったりすると、全ての人がzoom会議で顔出しをすると重くなりすぎてまともに会議に参加できなくなってしまい途切れ途切れになってしまったり固まったりしてしまうから、表情が見えるのはいいけれどその配慮も必要なのではないかなと気づきました。だから、このように大規模な会議に参加するためにネット回線を強くする必要があるのかなと学んだのと同時に主催者側になることがある際には、どのような環境の人がいたとしても積極的に参加したい！という声を上げてくれた人には学びの場を提供できるような環境づくりということも配慮に入れて考えていかなければならないなと学びました。今回の会議でいうと分散会の中で自己紹介すらまともにできないなかで、チャットでいいので是非自己紹介をお願いします。回線の調子が悪いことはよくある事なので気になさらず参加してくださいね！この一言に本当に救われて、相手の立場で声掛けをすることの大切さに改めて気付かされたのと同時にこのような言葉がけが当たり前のようにされているから暖かい場所だと言われているのかなと気づきました。このような暖かさというのは、これから小学校教員になっていく中でとても大事な要素で取り込んでいけるのではないかなと考え、学びとしてしっかりと自分のものにしていきたいと思えます。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 3年 瀬々 龍

私が所属するおのみち100km徒歩の旅には、事業趣旨として4つの柱（やりがい・いきがいの創造、青少年健全育成、地域コミュニティの活性化、市民参加の人づくり）というものがあるが、私が教員志望ということもあり、子どもに何か教えてあげたい、学ばせてあげたいという気持ちが強すぎて、体験学習という点に重視するあまり、子ども達の地域への参加という点をあまり見えてなく、そこから生まれる学びというものまで目を向けられていなかった。しかし、今回の交流集会を通して、地域に参加することから生まれる人とのつながり、そして、その人とのつながりの可能性について考えを深めることができた。私たちのグループでは小田圭介さんのおやじの会の話について聞くことができた。小田さんは、地域づくりの土台は、人と地域をつなげることであり、子どもと大人がただ遊ぶだけの何もしない集を開き、子どもの人とのつながりを増やすという活動を行っている。100km歩き抜くという1つの目的のもと行われる私たちの活動とは、大きく変わった活動に驚かされた。しかし、地域のコミュニティの活性化にあたって、両者に共有している1つの事柄に気づいた。それは、親、教師以外の大人とのつながりだと思う。自分に良くしてくれた大人がたくさんいれば、地元に戻りたいなど郷土愛が強くなるし、また大人になったとき、自分が子どもの時にうけた影響を別の子ども達にも還元してあげたいなど活動を起こす動機づくりにもなるのではないかと思う。人とのつながりが子ども達の将来、の可能性の幅を広げ、地域のことが自分ごとのようになり、その結果、地域共生社会が生まれるのだろうなど、自分が携わっている活動が子どもに与える影響というものについて、これまでとは違う視点から深く考えることが出来た。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 石田修次郎

私は今回初めて地域教育交流集会に参加させていただきました。

多くのことを学ばせていただきましたが特に強く感じたことは「人とのつながりの大切さ」です。人とのつながりがなければあんなに大勢の方々が参加されていないと思います。

コロナ禍において人と人のつながりは制限されるようになりました。私は、こんな時代になったから人とのつながりが薄くなるのは仕方ないことかなと思っていました。しかし、皆さんはできないことは仕方ないというか、何ができるのかに目を向けていました。できないからやらないではなくて、できることは何があるかなという風な考え方は参考にさせていただきますたいと思います。

私自身第3分散会でお話しをしていただいた2人の方のお話は非常に印象に残っています。平岩さんは私も知っている多くの大企業と連携して、家からでも子ども達がオンラインで充実する時間が過ごせるような活動をされていました。平岩さん自身大企業とつながることができる理由を東京という土地柄を利用しているとおっしゃっていましたが、それだけではないと思います。平岩さんが子ども達の放課後を充実したものにしたいという強い気持ちがいろいろな人を動かしたんだと思います。強い気持ちが人と人をつなげたんだと思います。

木下さんも地域の活性化をしたいという気持ちが人と人をつなげたんだと思います。画面越しに見えた子ども達の声や表情は生き生きとしたものでした。きっと、子ども達同士のつながりが強いから、楽しく過ごせていたのだと思います。そんな公民館を利用出来ているので子ども達だけではなく、大人たちのつながりもきっと深いのでしょう。1つの場所から地域の強いつながりを生み出すことができるのは魅力的だだと思います。

私自身今はまだ皆さんのような大きな活動はできないし、社会人として働きだしてからもできるかは正直分かりません。しかし、今回学ばせてもらった「つながりを大切にすること」は今からもできますし、一生できると思います。小さな事かもしれませんがつながりを大切にすることでいつか誰かの役に立てたらいいなと感じました。

本当に多くのことを学ばせていただきました。

また、お会いできることを楽しみにしています。

ありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 1年 熊谷早将

私が参加した分散会13では、シンポジウムでも発表があった若狭公民館と防災と遊びを結び付けた取り組みについてでした。まず若狭公民館の方は、コロナ禍で公民館で行っている取り組みについての発表がありました。感染拡大防止を徹底しながらも地域の人の関わりを絶やさないために様々な活動を行っていて、自分の地元の公民館では考えられないなと思ったし、こういう公民館が身近にあればいいなと思いました。この事例から私が学んだことは、どんな状況下であっても、できることはたくさんあるということです。今まで行ってきたことの枠組みからはずれてまでも、できることを最大限する、という姿勢を学びました。次に防災については、かるたや神経衰弱などの遊びをしながら防災について学べるものや、避難所運営の体験ワークショップを行っているという発表がありました。発表者の方はただの思い付きで始めたとおっしゃっていましたが、とても面白い発想だなと思ったと同時に、何事もやってみることが大事だということに気づかされました。自分だったらたとえ思いついたとしてもそこで止まって実際にやってみることはしないと思います。でもやってみないと分からないこともたくさんあるし、やってみると思ってもいなかったことが起きていい方向に向かうこともあると思うので、とりあえずやってみようと思いました。また、シンポジウムでは自分が今まで知らなかったことにたくさん出会えました。しかも1つ1つがしっかり地域と結びついていて、コダテルやコミュニティナース、また自分が参加している小学生と100km歩く活動もそうですが、普通じゃ思いつかないことが紹介されていて、普段から地域をよくしようという考えのもとで生活なさっているからこそできることだと思いました。今回の地域教育実践交流集会の全体を通して学んだことは、もっと地域教育について考えていかなければならないということと、いろんな考えをもっていろんな取り組みをされている方と交流することの大切さです。私は今まであまり地域教育について考えたことがありませんでした。私の地元である大分県の地域教育を活発にするためにも、もっと地域教育について考えようと思いました。また地域教育に取り組まれている方と関わることでいろんな知識ややり方を知ることができます。それらを踏まえていつかは地元の地域教育にかかわっていきたいと思いました。大変貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 小菌邦生

今回の集会に参加させていただき思ったことは、僕が今やっている活動つまりおの100のことをもっと知りたいと思いました。今回、お話をして下さった方々は皆自分の活動に自信を持っていました。もちろん、ぼくもおの100に自身をもって、誇りを持っていますが人前で、自由に話して良いと言われたとき、短い言葉で相手に伝えるのはとても難しいとおもいました。しかしながら、皆さんは相手によく分かってもらいながらも、まるで活動の全てを伝えているようで、僕はとても感動してしまいました。また、周りから質問がきたときに、いままで話していたこと以外の分野か質問がきたとしても自分の分野に落とし込んで、お話をして下さったので、本当にすごいなと思いました。また、僕が自分の将来の目標について話したとき、そのことを共に考えて下さったことが嬉しく、また同意してくれたことが今後の励みになりました。コロナ禍であまり人と議論し合ったり、話し合ったりする事がない状況で、たくさんを知れて本当によかったです。ぜひまた参加したいと思います。ありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 田中志歩

私はこの交流会に今年初めて参加して大きく3つの学びがありました。1つ目は魅力的、個性的な活動を全国各地でされているということです。私と同じように、もしくはそれ以上の想いをそれぞれにもって、それぞれが思うゴールに向かって日々活動されている皆さんがいるのだと実感することができました。内容も目的も違うけれども、その方たちと一緒に過ごすことができるとてもチカラをもらいました。そして話の内容はどうか、そのような方々と交流して話すこと自体が人に元気を与えるのだなと気づきました。

2つ目は知っているようで知らないことがあるということです。分散会ではSDGsに関する取り組みの実践事例を聞きました。私自身その言葉にとってもなじみがあったし自分事として取り組むことの大切さも知っていたのですが、まだまだ具体的には知らなかったのだと感じました。これはSDGsに限らないと感じました。例えば人とのつながりを大切にしなければならない、学校現場であれば地域と連携して地域を巻き込んだ取り組みを起こしていかななくてはならない、そのようなことはこの1年間の新しい生活からも大学の勉強からも学んで知っています。しかし実際に、つながる大切さと地域との連携を具体的に考えたときに、今までの自分の「つながる」という経験を漠然としか捉えられていなかったのかもしれないと感じました。4月から学校現場で働くので、地域の人たちとつながりながら一緒に授業や学校を創っていくということはどういうことなのかを具体的に考えていきます。

3つ目は相手のことを思う力です。事前研修会を始め、当日の最初もZoomに慣れていない方も満足して交流集会に参加できるように十分な環境を整えてくださいました。決して目的や目標をぶらさずに、達成に向かって様々な相手のことを想像しながら準備・行動していく姿を発表者であるからより感じることができ、とても安心・信頼して参加できました。そのように広く視野を持って行動を起こしていくことで相手の意識や安心感が増すことを学ぶことができたので、これから教員として授業をつくる時やそれ以外の人と関わる全ての場面で生かします。

そして最後にオンラインという環境にかかわらず、できることを考えて私たちのために十分な準備をしてくださったおかげでこのように学ぶことができました。本当にありがとうございました。皆さんと直接会うことができたらすき間時間に気になる話を聞きに行つて新しいご縁をつなぐことやより細かいコミュニケーションが可能になりもっとこの学びを深めることができるのだらうと思います。来年もまた皆さんと会って元気をもらえることを楽しみにしています。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 二年 津田和純平

まずは、コロナ禍のこの状況の中で大洲交流集会をオンラインで開催していただき、本当にありがとうございました。今回、初めての参加となったのですが、非常に学びが多く、本来であればこんな方々と実際にお会いできていたのかと思うとオンラインを少し残念にも思いましたが、その分はぜひ来年参加させてもらえたらと思います。

今回の大洲交流集会で一番多くの学びを得ることができたのが分散会でした。そこでは久保田テツさんの「ご近所映画クラブ」と本多正彦さんの「コロナ禍におけるPTA活動と地域実践」のお話をお聞きしました。どちらも小学生、小学校に関することを発表していただき、将来小学校教員を目指す自分としては、とても興味深い内容であったのと同時に、自分が小学校教員になった際に実践しようとか活かしたいとも思いました。特に本多さんのお話は大学でつい先日学んだばかりの地域に開かれた学校づくり、コミュニティスクールの内容が含まれていて、大学の講義よりもわかりやすく、とても勉強になりました。また、自分の意見や話すことに対して分散会の皆さんがやさしい表情で聞いてくださったので話しやすく、いい交流ができたのではないかと自分なりにではありますが思っています。シンポジウムのほうでは、発表された六名の方の行動力や発想力に驚くとともに、興味あるな、行ってみたいな、お話させていただきたいなと思いました。

今回の大洲交流集会に参加しなければ、関わることのなかったたくさんの大人の方や同期の大学生と関わり、交流できたことが当たり前でないことを終始感じていて、改めてここまで準備してくださったことに感謝しています。ありがとうございます。冒頭にも述べましたが、オンラインでここまで交流できたのであれば、対面で実際に顔を合わせてお話できたらどれだけすごいことが起きるのだろうと、今からワクワクしていて、来年も参加させていただきたいなと思っています。

またコロナの勢いが増してきておりますが、お体に気を付けながらお過ごしください。そして、いつか対面でお会いできることをお祈りしています。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 西川峻

今回、私が参加させていただいた事業の名称は「地域教育実践交流集会」というものですが、地域教育と言っても多様な形態や特色を持っていて、全国各地には様々な形で「地域教育」を実践されている方々が大勢いることを知ることができました。例えば、シンポジウムで事例紹介をされていた浜田さんが行っておられる「コダテル」という活動は、多様な働き方に対応できるワーキングスペースの確保、中学生や高校生が自習をするスペース（これだけで、地域として教育に携わっているということもできます。）、そして、イベントの開催やゲストハウスとしての顔など、一見実用的な使用用途を主として提供されている場であるように見えますが、そこに集まってくる中学生や高校生と大人たちが交流することで、自然に「地域教育」が実践することができる素敵な場だと感じました。事例紹介でもあったように学生の将来へのアドバイスや、悩みの相談など、子どもたちにとっての大事な学びの場になっているのだと思います。子どもたちはそこでの体験を胸に、郷土愛を抱き、地域（ふるさと）への恩返しをしたいという想いを抱く好循環を生んでいくのだらうと感じました。そしてそれらは決して社会に出た大人たちだけが行うものでもないということも今日の大きな学びです。同じ分散会におられた上田さんは大学生ながら、事業を起こし、ふるさとへの貢献を始めています。ひとりの人間として、何ができるかを考え、行動に移していて、とても素敵なお方でした。では、今の私にはなにができるのか、それを考える必要があると思います。私は現在、ふるさとに住んでいるわけでもなく、ふるさとに今すぐ帰る予定もありません。しかし、故郷でたくさんの体験をさせていただき、地域に育てていただいた部分も大いにあります。その恩は必ず返したいし、よい循環を生むためにも私も動いていきたいという想いがあります。そこで、今参加している「NPOおのみち寺子屋」の学生スタッフとして、尾道の子どもたちへの「地域教育」に携わっていきたく考えています。現在私は地域の子どもたちが、冬休みの宿題などを持ち寄り勉強する場を提供する事業の準備を、中心メンバーとして進めています。勉強を教えることは当然教育の一つでありますし、そのほかにも今回の集会で学んだ多様な「地域教育」の在り方を参考に、子どもたちへの「地域教育」を実践していく所存です。そしてそこでただ勉強を教えるだけでなく、子ども一人ひとりの心に寄り添い、交流し、子どもたちにとって多様な学びの場であるようにしたいなと思います。

今回、地域教育実践交流集会で、たくさんの方々に触れ合い、やはり世の中には自分の知らない多くの“おもしろい”や“楽しい”が溢れているのだと気づくことができました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 馬場和輝

『半日間の学びと気づき』

私は今年でNPOおのみち寺子屋の活動に参加して2年目ではありますが、今年初めて今回の交流集会に参加させていただきました。去年は家庭の事情から参加することができませんでしたが、今回オンラインで半日間の時間でありましたが地域教育のために実践している多くの方の活動を拝見させていただき、多くの学びと活力をいただきました。オンライン越しでも伝わってくる人柄や表情がどの方も素敵で対面でこの集会が行われていたらもっと充実した時間を過ごすことができているのではないかと勝手ながらではありますが思っております。前置きはこれぐらいにさせていただき、学びと気づきに移ります。

今回参加してみたの学びと気づきは多くのあるのですが一番感じたことを一つずつ紹介させていただきます。まず、学びとして地域教育のためには熱意と誇りが大切になってくることをまなびました。分散会やシンポジウムの時に発表された方のこのコロナ過でも「地域のために、子どもたちのために」ということで試行錯誤してできる事を創意工夫されて活動をされているのが伝わってきました。おの100の活動では今年は歩くことができなかったものの、これまで支えていただいた協賛先の企業様や宿泊施設など多くの方に感謝を送りました。これまで支えられていたことを再認識するとともに今までは「小学生のために！」という思いで続けてきましたが、観えないところで支えてくださっている方々の思いのためにも来年につなげていきたいと思いました。そして、気づきとしてはこのコロナ過でできる事を試行錯誤する中でICTの技術を最大限に生かして、離れていても画面越しにつながれるなど新たな挑戦をしていくことができるということです。今回のオンライン集会では沖縄県から北海道の方まで多くの方が参加されていました。活動紹介でもオンラインを使って活動を行っていたと聞いて社会が変化しつつある中でも何ができるか、何を実践していくことができるかを考え、動いていく姿がとても輝いているなと感じました。また、時代が移り変わる中でいろんな場面で多様性が生まれていきます。お互いに多様性の理解をしながら交流を測っていくことも今回学ぶことができました。

最後に改めまして、今回参加してみて多くことをまなび、気づかせていただきました。これからの社会で生き抜いていくために何がしていかなければいけないか、また学び続けなければいけないかなど胸にとめてこれからの時間を意味のあるものにしていきたいと思えます。今回させていただき有難うございました。オンラインということでいろんな課題がある中で準備をしていただきありがとうございました。来年は直接会場でお会いできることを楽しみにしています。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 原田武治

今回の地域教育実践交流集会は、例年とは違う形ではあったが、とても大きな学びを得られた1日であった。これから、分散会とシンポジウムの2つに分けて学びと気づきを振り返る。

まず分散会についてだが、私はNPOおのみち寺子屋の発表者として参加した。発表をする中で、普段は気づくことのできないような自団体の魅力を再発見することができた。私は学生スタッフとして関わり始めて今年で4年目になるが、自分自身と向き合いながら挑戦できる場があることは、とても恵まれていて幸せなことなのだと再認識した。また、今までとりわけ意識することはなかったが、小学生から社会人までさまざまな年齢の人たちが関わり合っただけで一つの旅を作り上げていることは、稀有なものであり、これからも続いていけるようにまずは自分たちが楽しんで挑戦していきたいと感じた。また、「ひめまる」という団体の方のお話も聞かせていただいたが、自分が生活を送る中で課題を見つけ、見つけるだけでなく、「自分にできることは何があるか」考えて行動に移せるのはすごいことだと改めて感じた。それと同時に、これから自分が社会に出ていく上でもそういった姿勢は大切にしたいと感じた。また、これは分散会全体を通して思ったことだが、みなさんが質問一つを取ったとしても、相手のことを引き出す工夫がされていて、さすがだと思われた。この貴重な時間を使ってどう相手を引き出すか、常に考えて行動されているんだと思った。

次に、シンポジウムについてである。とてもいろんな実践事例を聞くことができたように感じる。どの団体もコロナウイルス禍でどうやって乗り越えたかについて触れていたように感じる。自分自身では「コロナ早く収まってほしい。いつまで続くんだろう。」と悲観的にしかなかったが、どうやって対策をしながら、活動を行っていくか日々検討を重ねながら前に進もうとするエネルギーを感じた。また、コロナ「のせい」ではなく、コロナ「だからこそ」見えてきた、と今の環境に感謝しプラスに考えるのはすごいと思うし、その姿勢はとても大事だと感じた。また5分という短い時間だったのでもっといろんなことを知りたいなとも感じた。

最後に全体を通してである。発表者のサポートや、全体の運営のために当日よりも前からシミュレーションや準備をしてくれた沢山の観えない力があつたことに感謝したい。また、当日行ったイレギュラーなハプニングにも真摯に向き合い、解決しようとしてくれたその姿勢は見習いたいと心から感じた。オンラインだったけれども、心の距離はグッと近づいた集会だったと思う。本当にありがとうございました。来年また参加したいと思う。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 山田菜央

今回の地域教育実践交流会に参加して、自分の知らない世界、見えていなかった部分がたくさんあったということに気づき、とても新鮮な気持ちで参加することができました。

分散会のグループでは、NPO remoさんと、翠小学校さんでの取り組みについて発表していただき、コミュニティの活性化という、同じような目標を掲げられている団体が、一方では映画作り、もう一方では小学校と地域との関わりという全く別の視点からそれぞれユニークなアプローチをされていて、とても刺激を受けました。私たちの団体でも、地域を盛り上げるということに着目していますが、普段はなかなかほかの団体の活動について知ることはないのですが、こんなに近くの県でこんなに面白い取り組みがされていたのかと驚きました。確かに、取り組んでいる内容は違うけれど、その活動に対する思いや、身の回りの人との接し方、考え方は大変参考になるものばかりで、このような交流を通じて、もっと他の人が何をしているのか知りたいという気持ちが大きくなりました。

今日では、行きたい、知りたい、と思ったところに気軽に足を運ぶということは難しくなっていますが、今回の交流会を通して、こちらから動いていけば、オンラインでも有意義な意見交換はできるし、SNSなどで連絡を取り合うこともできるということも再認識しました。ファシリテーターの方のご厚意もあり、分散会でご一緒した方々とは、会の終了後にメッセージを送りあって意見交換することもできたので、これも今後につなげていきたいと思います。

このような状況下でもなんとかこの会を開催しようとしてくださった方のおかげで、新たな出会いを得ることができたし、自分の視野も広げることができたと感じています。周りの人との繋がりが実感しにくく、やりたいことも制限されてしまうような状態がこれからも続いていくかもしれませんが、今回の会に参加されていた方々のように、全国には同じようなことを目指して頑張っている仲間がたくさんいるのだということを思い出して、活動に励みたいと思いました。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

安田女子大学 2年生 岡崎綾乃

私が大洲研修会で学んだのは、観えない力についてです。

私は大学で生涯学習の授業をとっています。その中で、学校では学べない様々な学習、学習支援などについて、行政、NPO法人など様々な人たちが取り組みを行っていると感じました。しかしそれは知識として知っていただけでした。なんとなく誰かがやっている、誰かがやればいいやという風に思っていました。しかし地域コミュニティの活性化、子供の体験の創造など、世の中には様々な活動をしている人がいて、またその人の想いも知ることができました。おそらくこういう人は古今東西様々にいて、人に見えないところから社会を持ち上げていたのだと思います。私は何も知りませんでした。

例えば詳しく覚えていないのですが、看護師さんの活動などはまさにその通りだったのではないのでしょうか。医療に携わる人というのは大なり小なり社会貢献に関心があると思います。そういう風な、人々の社会貢献への気がかりを集めて、力にする人が社会に必要なのだと感じました。

特に印象に残ったのは7分散会のNPO法人remoさんの小学生に映画を製作させる事業です。90分×3回で脚本・演出・撮影のすべてを小学生にやらせ、最後に出来上がった映画をみんな絵見るのだそうです。面白い!と思ったことが二つあります。一つは全員役者をやること、二つ目はNGを作らないということです。一つめで面白いのは仕事の重さの調節です。数人グループで様々な仕事+一人一つの演技となると、どうしても作業量に偏りが出てしまいます。じゃあどうやってトラブルを防ぐのかというと、作業量が多い子は出番の少ない役に回るのだそうです。これに対し私はなかなか不公平なことをすると思いました。小学校のクラスの中でこういうことをするとどうしても作業を押し付けられてしまうと感じたからです。同様のことを二つ目、NGの禁止でも感じました。どんな失敗も編集はさせず、そのまま放映するそうです。失敗の誤魔化しなどから、その人の普段とは違う部分が見えたりして面白いのだそうです。これもなかなか酷だと思いました。クラスの人気者のNGは笑えるのだそうですが、私のようなクラスの日陰者にとっては沈黙が起こり心は地獄絵図です。

ただこうした経験から、例え自分をうまく出せないまま終わっても悔しさが残ると思います。その悔しさをばねに、今に何か成し遂げてくれるんじゃないか、そういう活動なのではないかと思いました。大洲に参加したことで世には実に様々な人がいるものだと思います。そして私が参加しているこの事業もそうした流れの一端に過ぎないことを知りました。いい経験でした。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

安田女子大学 2年 長谷川七穂

私は今回初めて地域教育実践交流会に参加しました。始めはどんな方たちが集まっているのだろうと緊張していましたが、始まってみると集まってきている方々のあたたかさを画面越しでも感じる事ができて、先輩方が今回の参加を勧めていた理由が分かった気がしました。

分散会は、佐那人の方々とサイボウズの方が発表する部屋でした。どちらの発表も私にとっては地域のつながりをつくっている方たちがいることを教えてくれるものでした。佐那人の方々は、ただただ村の人たちを想い、笑顔にしたい、繋がってほしいという思いをもって今も活動されています。私は、村の子どもと笑ってられるために身の丈にあったことを小さなことでもやっていきたいという佐那人の方たちのまっすぐな思いに感動し、地域の人とのつながりを感じられる機会が少なくなっている世の中だけど、その現状に嘆いて何もしないのではなくて、自分にできることを行動に移すことの大切さを学びました。

サイボウズの方の発表では、IT企業であるサイボウズが地域で行う様々なイベントを企画し、地域の人と関わろうとしていることを知り、松山市出身の私にとってはこのような取り組みをしている企業が松山にあることに驚きました。間違いなく松山を元気にする力になっていると感じました。

これら2つの発表を分散会でできくことができ良かったです。様々な地域で様々な活動をしていることを知ることでできるこのような機会をいただけたことは本当に有難いです。ほかの分散会の発表も気になりました。

また、分散会の中で話を回してくださった方が、メンバー全員が意見を言えるように機会を与えてくださったり、発言しやすいような雰囲気は自然とつくってくださったりしていたことも私にとって有難いことでした。私が活動しているおのみち寺子屋の活動の中でもグループで話す機会がたくさんありますが、そのときにどうしたらメンバーが話しやすくなるのか、というヒントを教えてもらった気がします。

今回参加して感じたことを忘れず、これからは生かします。今回はこのような機会をありがとうございました。来年もまた、参加してみたいと思わせてくれるような素敵な時間でした。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

広島県立総合技術高等学校 3年 延岡明日美

○閃きの大切さを学んだ

分散会では10の部屋で2つの事例発表を聞かせていただきました。

昨年、ご挨拶させていただいた方のお話も詳しく聞かせていただき、コロナウイルスが蔓延する中でそれぞれの活動を進めるためにはどうしたらいいのかについて深く話し合いができました。一つの議題に対してこんなにも真剣に話し合うことができる、考えることができる、そういう心の繋がりを感しました。

コロナウイルスが理由で出来ないことは増えていると感じていましたが、そこから何ができるのか、何をやるかの「閃き」が地域を活性化させたい私たちに大事なことだと学ぶことができました。

シンポジウムでは、時間は短かったかもしれませんが、詳しく知ることができました。

またメッセージ機能での意見の出し合いや感想の伝え合い、質問など出しやすい雰囲気になり心にゆとりを持つことができ、皆さんの様々な「閃き」の意見を取り入れることができ、気付くことができました。

○全体を通して

昨年から参加させていただき、今年で二回目の参加でした。

昨年は新たな場所・出会い・発見の繰り返しで、また発表者として、終始とても緊張していました。今年度は昨年お世話になった方と久しぶりの再会、そして新たな出会い…。

いつものように握手をすることや、名刺を交換すること、資料をお渡しすることは出来ませんが、ZOOMという場で各地から多くの方との「繋がり」を感じることができました。

全ての分散会でのお話を聞くことはできませんでしたが、多くの方が地域のために、誰かのために、このコロナ渦で精一杯行動をしていることに感銘を受けました。

それぞれ活動をする場所は違っても思いは同じです。

私も今を見直し、よりよく改善し、出来ることを精一杯取り組みたいです。

また、来年の2021年からは、新たなステージで「誰かのために」動くことができる、そんな大洲で出会った素敵な先輩方のようになりたいです。

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 原 知里

①「楽しい！やりたい！」に満ち溢れている人

この大会への参加は4回目なのですが、今年はリモートだったため発表される方々の表情がとてもよく見えました。発表や質疑応答の際に、はきはきとした声で楽しそうな表情で話されていたことが印象的です。分散会での発表やシンポジウムでは、その活動を楽しみ、もっと良くしようとされている方々の姿からとても元気と勇気をいただきました。どのような現状であっても、折れずに、「必ずこれを成し遂げたい！」と強く思っている人を応援したくなるものなのだと、当たり前のことですが、今年感じる機会が少なかったことであるので、素直にそう思いました。

②新しい風を吹かせる人

分散会で、コロナ禍におけるICT利用の広がりについての発表を聴き、「どのようにして教職員の間でそのICTの流れが作られたのか？」と質問したところ、例えば授業動画の配信は、複数人が協力しないと作れない状況で行ったからだという回答が返ってきました。（動画に出演する人・撮影する人、小学校であれば全教科を一人で作るのではなく教科ごとで分担する等）周囲の人を楽しく巻き込める人が、新しい風を吹かせるのだろうと思いました。

③専門知識でもって、相談を受ける人

これもまた分散会で、地域と学校をつなぐ専門の職員を置いている学校の発表を聴きました。何かやりたいことがあれば、両者ともその方に相談されるそうです。学校・地域において、「この人に相談したら大丈夫！」という人がいるだけで、活動の幅が広がったり、誰かの「やりたい！」を支えたりすることができるのだと思いました。私も、「地域のことは原先生に相談したらいいね」と声をかけられるような存在になれるよう、少しずつやりたいことを周囲の人に広げていきたいです。

〈まとめ〉

この会ではいつも「人との出会い」を楽しめ、「つながり」の大切さを実感できます。普段の仕事でも、NPOでも、このような多様性と出会い適応すること、楽しみながら（皆が楽しく取り組めるように）仕事を行うことを大切にしていきます。最後に、印象に残った宇和島市中央公民館青少年市民協働センター事業の西尾さんの言葉を紹介します。「やりたいことがある人には応援、見つかっていない人にはヒント、つまらないと思っている人には刺激」私もこの言葉をエールにして、まずは日々の仕事で生徒たちと向き合っていきたいと思います。今年も多くの学びを本当に有り難うございました！

第13回地域教育実践交流集会レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 森田水加穂

先日は、実践交流集会で大変お世話になりました。

私は数回、大洲での実践交流集会に参加したことがあります。運営委員の方々が創り出される雰囲気が好きです。だからこそ、今回オンラインで開催されると聞き、どのように運営されるかという事について、とても気になっていました。しかし、会に参加してみても、運営の方々の多くの気遣い、準備、想いの強さ、器の大きさを感じ、改めてこの場の凄さを感じさせられました。

今年は未曾有の事象が起き、これまでの当たり前が通用されなくなっていますが、職場では、これまでの当たり前を見直したり、本当に大事なことは何か？という点を改めて深めたりする機会がありました。それと同じように、いいえ、それ以上にオンライン開催ということが、大洲の交流集会をよりパワーアップさせるものになっていたように感じられ、改めて、大洲の集会を創られる運営委員の皆様の「今、この時をよりよくしたい！」「たくさんの方が繋がって欲しい！」という温かく、強い想いを感じることができました。

社会人になって数年経った今、“自分の強い思いだけでは、思いを形にすることは難しい”ということを感じています。それでも、大洲の集会に参加する度に、その難しさより、自分がしたいことに向かっていく喜び、大変さを抜けた先にある達成感、周りの人と繋がっていく嬉しさをもっともっと感じたい！！と思えます。参加する度に前向きな気持ちになれるこの会の温かさ、有り難さと感じさせられ、私も、身の回りの人たちにとって、そんな存在になりたいと強く感じます。強い思いをもつ一方で、その思いとは違うことが起きた際に人のせいにして、感情を表に出しすぎたりするところが私にはとても多くあるので、大洲で出逢ったたくさんのカッコいい先輩方のように、いつも明るく、朗らかで、前向きに身の回りの人たちと過ごせるようになりたいと思います。

最後に、今回の会で心に残った言葉で締めたいと思います。

『楽しかったら（人が）集まってくる』

『アートは技術が要らない。答えがないから、立場を超えて、誰とでも繋がりが得る』

『意味が分からないものとの出逢いは、自分の価値観を揺るがす』

『今の若者には「空間」と「伴奏者」が必要』

本当に、今回もありがとうございました！！